

## 神戸市レベル1建材見落とし事前調査の報告

兵庫県保険医協会 上田進久

中皮種・じん肺・アスベストセンター 永倉冬史

兵庫県保険医協会（以下、保険医協会）は、2020年10月13日、神戸市立下山手住宅解体工事のアスベスト対策について神戸市住宅建設課および解体事業者からの工事説明を受け、リスクコミュニケーションの形成を図った。中皮種・じん肺・アスベストセンター（以下、アスベストセンター）はオブザーバー参加した。保険医協会は事前に解体に係る建築物の設計図書を入手し、アスベストセンターに分析調査を依頼した。

工事説明会では工事発注前の市による事前調査、入札後の事業者による事前調査で、「電気室」で使用されていたレベル1吹付け材の見落としがあったことが判明した。その後再調査が行われ、さらに再々調査が実施された。3社の分析業者の調査結果に相違があり、市は工事自体を再発注、再入札を行った。その結果、アスベスト除去に係る施工面積が6.6倍、解体工事費が5億円を増額する工事に変更になった。

- 1) 神戸市は、当該工事発注前にアスベスト調査を行い、A社は21検体を抽出し内4検体にアスベスト含有を認めた。その条件下で発注が行われた。
- 2) 入札事業者は工事前アスベスト調査をB社に依頼した。B社は保険医協会への説明会で、設計図面上「電気室壁、天井の無機質繊維吹付け材」が未調査であったことを指摘され、調査が繰り返され95検体を抽出し、42検体から検出された。
- 3) 保険医協会の再調査の要請を受けて、神戸市はさらにC社に調査を依頼し、111検体が調査され8検体から検出された。
- 4) 市は、3者の調査結果を比較表にまとめ、それに基づき1社でも検出を認めた建材をアスベスト建材除去の対象とし、工事を再発注した。その結果、アスベスト除去に係る施工面積が6.6倍、工事費用が5億円増額した。
- 5) 以上から、神戸市の公共工事において事前アスベスト調査が不十分なまま工事が発注される可能性のある実態があること、リスクコミュニケーションによりレベル1建材の不適切撤去が回避されたこと、調査業者による含有結果に大きな相違がある場合があることが判明した。市は専門家による第3者委員会を立ち上げ、この経過の問題点を抽出・検討し、同様の市の発注する解体工事に係るアスベスト事前調査が適切に実施されるようルールづくりをすべきである。

以上